

所属分科会	改訂の概要	次期改訂への課題
解剖	<ul style="list-style-type: none"> 疾患名用語全体における、「囊」と「嚢」の漢字の統一を依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> 獣医発生学用語に奇形の項目があるので、その中から疾患名用語に記載できるものを検討。
病理	<ul style="list-style-type: none"> 会員の意見にそって検討した。 牛伝染性リンパ腫については、微生物分科会、臨床分科会、病理分科会で協議し、まずは類義語を整理したうえで、長期的な議論が必要であることが確認された。 豚の増殖性腸炎について専門家および産業動物臨床分科会と意見調整し、修正した。 脂腺腺腫を修正。 馬の疾患名のルビなどを修正。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。
寄生虫	<ul style="list-style-type: none"> 獣医寄生虫病学に関する用語について、日本獣医寄生虫学会・教育委員会と意見調整し、改訂作業を行なった。 日本語名、英語名、類語などの用語記載を約50修正した。 野生動物で見られる寄生虫病を中心に、新たな用語を26追加した。 そぐわない用語を9削除した。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。
微生物	<ul style="list-style-type: none"> ロタウイルス病 に統一。 コロナウイルス病 に統一。 トロウイルス病 に統一。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇感染症、〇〇症、〇〇病とかの使い分けにつきましても、定義もなく人によって感覚的なものとか好みとかなかなか統一できるものではありませんので、今後の検討課題。
家禽疾病	<ul style="list-style-type: none"> 家禽疾病に関する43語を修正。 3語（イソスポラ症、鳥糸状虫症、吸虫症）を削除。 5語（前脳症、アイメリア症、眼虫、胃虫、鶏パラチフス）を新規追加。 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの病気に複数の病名がある場合、教科書、論文、法律のどの記載を最優先すべきなのか方針が必要。 特定の病気が複数のカテゴリー（臓器別、感染症など）に該当する場合の対応方針が必要。 類語を記載基準が不明確。 一部の英単語について定まった和訳がない場合の対応方針が必要。

公衆衛生	<ul style="list-style-type: none"> ハンタウイルス肺症候群 (hantavirus pulmonary syndrome) を追加した。類語としてハンタウイルス心肺症候群を追加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「腎症候性出血熱ウイルス感染症」は間違いではないが、最近では腎症候性出血熱ウイルスとはあまり言われなくなっている。今後は「腎症候性出血熱」の類語としては掲載しなくても良いかもしれない。
獣医繁殖	<ul style="list-style-type: none"> 改訂チェック作業を現在執筆が進められている獣医繁殖学第5版(文永堂出版)および獣医繁殖学マニュアル第3版(文永堂出版)の執筆者約30名に依頼した。 動物種類のうち、「犬・猫」、「牛」、「馬」、「豚」、「トリ」について検討し、改訂を行った。 「馬」と「豚」に関する用語の収録が十分でないため、これら動物種の生殖器病にかかる重要疾患名を新規に追加した。 「犬・猫」と「牛」では軽微な改訂、「トリ」では改訂用語はなかった。 改訂にあたり、現在獣医系大学で教科書として使用されている獣医繁殖学第4版(文永堂出版)および動物臨床繁殖学(朝倉書店)との用語の統一性を重視した。 	<ul style="list-style-type: none"> 獣医繁殖学第5版(文永堂出版)が出版される予定であり、獣医臨床繁殖学コアカリテキスト(文永堂出版)も含め、これらテキストとの整合性を確認する必要がある。
臨床・小動物	<ul style="list-style-type: none"> 第5次改訂時に日本獣医麻酔外科学会と日本獣医内科学アカデミーに依頼し、集約されていた修正意見を今回、反映した。 整形外科分野について日本獣医麻酔外科学会に追加の改訂を依頼し、それを反映した。 2022年3月に発刊された「獣医内科学第3版」の編集時に指摘があった修正意見を反映した。 行動学分野の全面改訂をおこなった。 2022年7月までに日本獣医学会HPに寄せられた修正意見を反映した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「流涎」、「昏睡」など疾患名ではなく、臨床徴候が含まれている。本用語集に臨床徴候を含むか否かについては検討が必要である。 特に専門性の高い神経疾患、皮膚疾患について各専門医協会に確認をお願いしたい。
臨床・大動物	<ul style="list-style-type: none"> 2022年3月に発刊された、「獣医内科学第3版・産業動物編」の編集時に指摘があった修正意見を反映した。 「牛伝染性リンパ腫」と「豚増殖性腸症」は、他の分科会と意見調整して修正した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「牛伝染性リンパ腫」と「豚増殖性腸症」については、今後の用語として定着程度と、関連分野での取り扱いの変化をもとに、引き続き検討が必要である。
生理・生化学	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。

日本獣医薬理学・ 毒性	<ul style="list-style-type: none"> ・ コアカリ準拠「獣医薬理学第二版」と「獣医毒性学第二版」に記載されている疾患名用語が、用語集に対応していることを確認した。 ・ 用語集に収載されていない用語（約 30*）や類語（約 8*）を新規に追加した。*種による重複あり。 ・ 幾つかの用語について、臨床分科会の意見を受けて削除した（3件）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の用語集においても必ずしも疾患名だけではないものも含まれているようなので、今後の課題として統一を図るように議論していきたい。
実験動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ カーバチルスの学名 <i>Filobacterium rodentium</i> が一般に知られるようになってきたため、疾患名を学名による感染症名に変更し、旧用語は類語へ移した。 ・ 同様に、肺パスツレラの学名変更 (<i>Rodentibacter</i> 属菌)にともなう類語追加など、類語の追加・修正、タイプミス of 修正を行った。 ・ マウス・ラットの外部寄生虫症・原虫症の追加、軽微な外見異常用語の追加を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症以外で実験動物学の観点から必要な用語を充実させる。 ・ マウス・ラット以外の実験動物の用語を充実させる。 ・ イヌやブタの用語では、今後、関連分科会との調整が必要になるかもしれない。 ・ サルの用語をどこまで充実させるかも今後の課題である。
野生動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「コアカリ野生動物学」に記載のある疾患名の中で、動物の疾患名を 57 追加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。
疫学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した教科書「魚病学（緑書房）」に基づき、魚病名を追加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記以外の魚病学の教科書（「新板魚病学概論」など）に掲載される用語との使い分けについて方針を明確にする。
全体を通して （本委員会委員長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物の種類名として「魚」を追加した。 ・ 同一の動物種かつ疾患項目の中に同じ用語が2つ以上重複しているものを見つけ、整理した。 ・ 英語名称のふりがなの使用方法を統一した。 ・ 2021年までにユーザーから頂いた御意見を、各分科会に精査いただき、可能な限り反映させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルスの感染による病名について、「XX ウイルス感染症」と「XX ウイルス病」の使い分けの方針を明確にする。 ・ 動物種として、「野生動物・その他」に収録される用語が増えた。次回、動物種名の追加など検討が必要。 ・ 2022年以降、ユーザーから頂いた御意見は次回検討。